（別紙4）　　平成　21　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4370103956		
法人名	社会福祉法人　日生会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム　バニラハウス		
所在地	熊本市小山町６丁目１０番１３号		
自己評価作成日	平成２１年１０月３０日	評価結果市町村受理日	平成22年３月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4370103956&SCD=320□

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市水前寺６丁目４１―５
訪問調査日	平成21年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・木のぬくもりのある建物と、広い芝生の庭など、環境を整え穏やかに生活できるようにしている。

・建物には、消臭・殺菌効果のあるもみの木の木材を使用している。

・アニマルセラピーを取り入れ、癒しを行っている。

・24時間医療連携体制をとり、緊急時や日々の生活の安心につなげている。

・地域運営推進会議や家族会を実施し、情報交換や情報の発信を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「理想郷を作りたい」という理事長の夢を実現させたホーム。住職でもある理事長はほぼ毎日ホームを訪れ、時にはお経や法話を行い、入居者に慕われる存在となっている。物心両面で、法人全体からの協力・支援があり、規定以上の職員配置や2人夜勤体制、緊急時の応援体制、隣接する医療機関との連携が確立され、入居者・家族にとって安心で快適な暮らしが整えられている。職員にも働きやすい職場環境になっており、心にゆとりが持て、入居者のペースに合わせてゆったりと援助が行われている。「入居者の幸せを第一に」の思いは、職員だけでなく、2頭のアニマルセラピー犬にも伝わっているかのように、入居者を見守り、安らぎを与えている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に理念を掲示し、職員間で日々確認して利用者の悔悟に活かしている。	「地域に根ざした暮らし、尊厳ある温かい家庭、安心・安全な生活」等を理念に据え、5年前の開設以来実践に努めている。毎朝理念の復唱で一日が始まり、ケアの中で具体的な職員指導が行われている。年度毎に、理念に沿ったケアであったかどうかを全職員で振り返り、次年度の目標につなげていくなど、理念の意識付けが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の散歩中は挨拶を心がけている。また、近所の方からも気軽に声かけして戴いている。自家製の花や野菜などをいただくことがあり、お礼に手作りのお菓子などをお届けするなどして交流を図っている。	散歩時の挨拶や何気ない会話、隣家から採れたての野菜をいただいたり、手作りのおやつを配ったりと、隣近所との身近な付き合いに努めている。また、地域の夏祭りや母体特養の行事に参加し、地域住民との交流を図っている。職員は町内の清掃奉仕、毎月の地域の会合に出席、ケアマップ作成に参加するなど、地域に貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域代表の方にも地域運営推進会議に出席して戴き、事業所の存在を情報発信してもらっている。相談の受付や地域包括支援センターへの連携も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議の開催後、全職員と会議の内容を協議している。又、意見や要望を検討して、サービスの質の向上に活かしている。	地域の社協長、地域包括支援センター職員、家族代表、法人関係者をメンバーに迎え、それぞれの立場から、介護保険制度や地域の状況などの説明があり、情報交換の場になっている。ホームからは入居者の近況報告と共に、苦情・要望も遠慮無く話してもらうよう呼びかけており、活発な意見交換が行われている。会議内容は職員に伝え、ケアの向上に反映させている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとの交流を密にして情報交換を行い、サービスの質の向上の取り組んでいる。	地域包括支援センターを通して、行政との情報交換が行われている。理事長は行政関連の会議等に参加し、介護現場の状況を伝え、サービスの質の向上につながる提案を行っている。ホームは国体道路に面し、24時間営業の店舗もあることから、夜間の騒音や安全面について交番に相談。夜間の見回りが行われ、環境改善が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体施設に設置してある身体拘束委員会に基ずき職員研修会に参加し周知徹底している。徘徊、不穏時は常に寄り添い介護をして対応している。	拘束排除の研修を毎月実施、職員への徹底した意識付けが行われている。玄関の出入りは自由。出かけようとする入居者はチャイムで察知、さりげなく付き添い、安全を確保している。アニマルセラピー犬が、庭に出た入居者を見守り、職員に知らせてくれた事もあり、安全確保の一翼を担っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	市や県の研修や、施設内研修に参加して高齢者虐待防止法について勉強している。 又、身体拘束委員会を中心に、ミーティングや日々の介護の中で虐待などの啓発や防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市や県の研修会に参加し、認知症の方の権利擁護の勉強をしている。施設内職員研修でも研修会を実施した。又、必要な家族や相談者には情報提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に、契約書や重要事項説明書の詳細について説明している。又、面会時や家族会で説明し、理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談専門員の来訪を受け、利用者の話を聞いてもらったり、気付きの点を報告して頂いている。苦情相談箱も設置している。	月に1回介護相談専門員が訪れ、穏やかに入居者の話を聴いてもらっている。その内容は職員にフィードバックされ、入居者の思いを知る機会となっている。家族会には半数以上の参加があり、職員はあえて参加せず、自由に話し合えるよう配慮している。家族会での意見は運営推進会議で家族代表から報告があり、サービス向上につながっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	家族会や地域運営推進会議等で要望や意見を戴いている。又、面会時に要望があった場合は、コメント用紙に記入し、職員間で話し合い、改善し周知徹抵し、家族にも改善策を報告している。又、母体施設の職員会議において報告している。	管理者・職員間の関係が良好で、安心して相談できる雰囲気が感じ取れた。職員への聴き取りでも「職員の思いに共感してくれる良き理解者」との管理者像を得ている。毎月の職員会議や定例のサービス向上委員会等、全職員で話し合い、ケアの質の向上を図っていく体制が法人全体に確立されており、意見・提案を述べる機会は多いと思われる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	36協定を締結し、労働基準法を遵守しながら労働時間等を守り、また、有資格者や勤務年数に応じて給与を規定している。また、研修や委員会活動等でやりがいやスキルアップに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格試験該当者への啓発をしている。法人内外の研修を受けている又、経費の補助、年休配分等で資格取得や研修を受けやすい環境を配分している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市のグループホーム連絡協議会に登録し、参加している。得た内容は全職員に報告してサービスに役立てている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当を決めて利用者との信頼関係を築きやすいようにしている。又、生育歴、生活歴を尊重し、訴えを傾聴して日々の介護に活かす努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	待機者家族に必要に応じて電話で状況の確認をしている。又、見学時に、困っておられることの相談を受けアドバイスをしている。入居前に事前調査を行い情報交換をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要かをよく検討し状態や病気の進行にそって病院や母体施設と連携し必要なサービスの紹介をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴を知る事で本人の訴えの内容などを理解する手段としている。又、食事やお茶を共にする事で会話の機会をつくり、人生の先輩としての話を傾聴している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを受け止め本人と家族の架け橋になれるような関係作りに努力をしている。特に遠距離在住の家族には文書等で状況を報告し、一緒に本人を支えていく安心ある関係を築いていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に可能な限りでの面会をお願いしている。又、知人、親戚などの面会があった時は、家族に連絡している。	これまで馴染んできた人や場所との継続を重視し、訪れ易いよう温かい雰囲気作りに心がけ、家族には可能な限りの訪問を呼びかけている。共に阿蘇や温泉、食事に出かける家族が多く、絆が深まっている。親戚や友人等の訪問もあり、時には懐かしい場所へ伴われる事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別ケアを基本とし、各利用者の個性の把握に努め利用者間の交流の橋渡しをしている。又、食堂テーブルはコミニケーションをとりやすい配置にする等の配慮をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙や電話でその後の様子を知らせていただいている。又、必要時面会をしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケアを実践する中で、利用者個別のやりたいことを話してもらっている。又、会話や行動の中で本人のやりたいことを察知したり確認したりしている。	入居者一人ひとりとの対話を大切にし、傾聴することで思いに気づくよう努めている。日々のケアの中では、些細なサインも見逃さず、記録に残す事で、意向を汲み取る努力が行われている。また、家族からこれまでの生活の様子を聴き取り、本人の意向を推察する手がかりにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から生活歴を聞いているが全てを伺う事が難しい場合がある為、本人、家族との信頼関係を築きながら聞いていく事で利用者の全体像を把握し、職員間の情報の共有を図り、ケアプランに活かしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌やケース記録の確認で日々の変化を確認している。毎日のミーティングで利用者の状態の確認を職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヵ月毎のカンファレンスを開催し、状態把握をしている。又、モニタリングを通してケアプランの見直しをしている。家族の面会時にケアプランの意向を聞きプランに反映するよう努めている。	入居者個々に担当職員をおき、モニタリングは担当職員が主に行っている。毎週1名ずつのカンファレンスを実施、介護計画に反映させており、全職員の意見を基に介護計画が作成されている。法人でアセスメント研修を行い、職員の情報収集や分析能力の向上にも努めている。家族の訪問時に、介護計画を説明、話し合い、同意を得て決定している。	遠方に在住する家族は訪問が少なく、手紙や電話で連絡しているが、話し合いが十分とまでは言えないように思われる。今後、メールなどタイムリーな情報交換の手段も検討されることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケース記録の記入や申し送りノートを活用して、情報の気付きの共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医院より看護師の訪問、医師の診察、精神科医の往診を受け、利用者の状態に応じ支援している。又、グループホームでの対応が困難になっても安心して生活の維持ができるように、母体施設と連携し移行しやすい体制をとっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや｣近隣の障害者施設の方や近所の方とのつながりを大切にしている。同敷地内のおやま内科の職員や、母体施設の職員とは常に交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態の変化や、本人の意向などを家族に報告し、状況に応じて医師の面談を受けていただき、納得と安心の医療支援をしている。	入居時に家族と話し合い、かかりつけ医を決定。隣接の医院とは、毎日の健康管理や緊急時の対応等、強力な支援体制が得られており、ほとんどの入居者がかかりつけ医としている。また、認知症専門医との連携が密に行われ、目覚ましく症状が改善した入居者も見られている。週に1回は歯科の訪問診療があり、口腔ケアにも熱心に取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携医療機関おやま内科の看護師が訪問してバイタルチェックや様子観察をし医師の報告している。又、定期的に通院して健康管理をしている。必要時往診もして戴いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは24時間の連携体制をとっており、主治医より入退所の申し送りや。看護師による看護サマリー等のやり取りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来ること出来ないことの見極めをして、本人のダメージが少ない方法で対処できるようにかかりつけ医、看護師、家族と協議しながらおこなっている。	重度化及び看取り介護に関する指針が作成されており、入居時に説明、話し合いが行われている。ホームに看護職員を配置、母体特養の看護職員の協力体制、隣接医院の濃厚な支援等、24時間の医療連携が可能ではあるが、「本人にとってどこが一番良いか」を考え、病院、特養への転院も選択肢に入れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎日のミーティングや申し送り時に、容態急変時の対応について確認をしている。応急手当の方法についても母体施設の職員研修に参加したり、消防署の救急法の研修に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自動非常火災報知器やセキュリティ通報を設置している。又母体施設との連携し、緊急時の協力体制を整え非難訓練に参加している。又運営推進会議で防災についてお願いしている。	毎月の法人全体の合同訓練に参加し、ホームでも毎月シュミレーションを行っている。入居者の不穏、混乱を考慮し、訓練は職員のみで実施している。消防署の指導・研修を受け、緊急時通報システムやスプリンクラーを設置。近隣住民の協力体制を整備して外部からの救助者が窓ガラスを割って入るように、ベランダに金槌を備えているなど、熱心な災害対策が取られている。。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄等は人目につかないように配慮している。ケース台帳、帳簿関係はカギのかかる保管場所に保管している。	言葉づかいや態度への指導が徹底して行われ、一貫した敬語、トーンや語調も柔らかく、尊敬の念が感じ取れる優しい声かけが行われていた。トイレ誘導は歯磨きと一緒に誘ったり、「廊下の散歩に行きましょう」など、誰にも気づかれないよう配慮されていた。尊厳ある対応に、入居者は誇りを保ち、穏やかに過ごされているように見受けられた。	行き届いた接遇であるが、入居者・職員が共に立位時での声かけでは、長身の職員は入居者を見下ろすことになるため、膝をかがめるなど目線を低くすると更に良いと思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必ず本人の意志を聞いてみる。本人の気持にそって行動できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事とおやつ以外は決まった時間はなく、それぞれが自分の意志にそって自由に過してもらっている。希望があれば買い物などの外出や会話をするなど共に過す支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で身なりを整える気持や意識を尊重してその人らしい身だしなみを個別に支援をしている。理美容に関しては行きつけの美容室の利用を家族に依頼しているが、困難時は訪問美容を利用してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理を含めて可能な限り準備を担ってもらっている。誕生日には手作りのケーキで本人の好みの食材を中心とした食事を作りお祝いをしている。おやつも出来る限り手作りで、時々利用者に参加してもらいおやつ作りを楽しんでもらっている。	食器は見た目に美しく、持ちやすい材質の物にこだわって準備されていた。母体特養の管理栄養士が嗜好に沿って献立を作り、調理師の資格を持った職員が食べ易さを考えて調理。旬の食材で季節感溢れる食事が提供されている。行事食は贅沢に、ホテルキャッスルのケータリングや寿司職人が目の前で握ってくれる花見寿司等。食事介助はさりげなく行われ、食後はのんびりするなど、食事を楽しむ工夫が随所に見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日ぶんのカロリー計算による献立を提供している。食事、水分摂取量のチェックを行い、栄養保持を確認している。月に一度体重測定をし、体調管理の目安にしている。水分は常時飲水できるようミネララル水を設置している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの促しを行っている。介助が必要な利用者については、職員が一緒に口腔ケアを行っている。必要時は、訪問歯科の健診を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをして、個々のパターンを確認している。昼と夜の時間帯により下着を区別し、排泄失敗による不快感を軽減しているように支援している。	排泄パターンを把握し、早めのトイレ誘導で失禁を防いでいる。夜間は眠りを妨げないよう1回程度の声かけ、歩行状態に応じてポータブルトイレを準備。夜間は紙おむつ使用の人も、昼間は通常のパンツに尿取りパット使用し、こまめな声かけで排泄の自立に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、スムーズな排便の促しに配慮している。又ラジオ体操や廊下などの歩行運動の声かけをしている。水分補給や排便を促す食物の工夫やオリゴ糖シロップ等を利用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に応じて毎日入浴していただいている。お風呂嫌いな方も2日に1回は入浴していただくように誘い方やタイミングに工夫している。	午後を入浴時間としているが、失禁等必要時はシャワー浴を実施。季節に応じて菖蒲湯やゆず湯など、入浴を楽しんでもらうよう工夫している。歩行や浴槽の出入りが困難な人には、機会浴を設置し、安心・安全に入浴できるよう配慮。入浴拒否者にはバラ湯や入浴剤を使用したり、一番風呂に誘ったりと工夫し、快く入浴してもらうよう努力している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は出来るだけ活動時間にしているが個々の利用者の希望や状況により居室で休息してもらっている。居室よりホールが休める方はソファーや畳の間で休んでもらっている。夜間は夜勤者と当直者の体制を整えて緊急時に備えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表により、毎日服用している薬の用法や用量の確認をしている。目的・副作用についてもその都度医師の説明を聞き、職員間で申し送り、家族にも連絡している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、性格などから、希望、出来る事の役割を担ってもらっているが、本人の負担にならないように配慮しながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ散歩に出かけ気分転換が図れるように支援している。外出困難な方については廊下の歩行や園庭の散歩などの支援をしている。	職員が付き添って、近くのコンビニへの買い物や周辺の散歩に頻回に出かけており、花見にも数名ずつで出かけている。。家族同伴のドライブや外食を勧め、気分転換と共に家族との交流を図っている。外出を好まない人には、その人の好きな過ごし方を尊重しつつ、時折広い庭に連れ出し、阿蘇の山並みや通りを行き交う車の様子などを見てもらうようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に家族から財布や所持金持参の必要性を説明している。理解して戴いた利用者には金額を把握したり所在確認して安心の援助をしている。困難な方についてはおこずかいの預かりをしている。その際は預かり書を家族と取り交わす。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用していただいている。手紙は必要に応じて、代読、代書している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明器具は、柔らかい明るさの物を設置している。カーテンも花柄を使用して明るさを調節している。窓ガラスは全て二重構造にしている。出窓やテーブル、洗面所には、季節の花や観葉植物を飾っている。居間の暖炉も利用者の安らぎとなっている。	リビングの暖炉では薪が赤々と焚かれ、程良い温かさと和む雰囲気が醸し出されている。和室スペースには仏壇が置かれ、毎朝お祈りする入居者の姿が見られる。ベランダの向こうは芝生が広がり、戯れるセラピー犬の姿が見える。室温・採光・空気清浄・音量等細部に配慮が行き届いており、インフルエンザ対策にウイルスウォッシャー6機を迅速に設置するなど、安全・快適な住まいが整えられている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事テーブルの他にゆったり座れるソファーや、形状安定型の椅子を設置している。また、和室や仏間を配置している。アニマルセラピーの2匹の犬の動き回る様子を眺めて楽しんでもらえる様窓辺に椅子を置くなど工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、家族にお願いして自宅に近い環境作りを教えていただき、自宅で使っていた調度品を持参していただいている。必要時に応じて、お位牌や遺影も持参していただいている。	入居時の家族への働きかけが効を奏し、一人ひとり個性豊かな居室が作られている。使い慣れたベッドや調度品、炬燵、ソファーが置かれ、手作りの作品、家族の写真が所狭しと飾ってある。位牌や遺影が祀られている居室もあり、家族とのつながりが感じられた。馴染みの物に囲まれ、炬燵でのんびり編み物をする入居者の姿も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の扉には、各部屋異なった花の彫刻がしてあり、ガラスは色分けをして、利用者に分かり易いように配慮している。		